秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより
きらりNet

令和４年１２月２６日
第１２８号
秋田県立秋田きらり支援学校
地　域　支　援　部

教科の学習と自立活動を考える

～「保健体育　バドミントン（中学校Ｅ球技）」～

教科の学習において目標を達成するために、学習活動や教師の手立てなどを工夫して、実践していることと思います。特に障害のある児童生徒にとって、**自立活動との関連付け**は非常に重要になってきます。今回は保健体育のバドミントンの実践を例に考えてみます。

〇単元の目標
- バドミントンの楽しさや喜びを味わい、その動きややり方を理解し、基本的な技能を身に付ける。
- バドミントンについての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える。
- バドミントンに積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動する。

学習の流れ
1　整列
2　準備運動
3　練習
4　振り返り

学習の始まりとして、基本的な行動（整列等）が身に付くように指導することが大切です。並ぶ場所が分かるようにカラーコーンを目印とする等、自ら整列できるように、実態に応じて指導します。（写真１）

写真１

準備運動では、見本となる教師や生徒に注目したり、模倣したりする力が必要になります。また、手伝ってほしいことを周囲の人に依頼する力が必要な生徒もいます。そうしたことが予想される場合は、伝え方を事前に決めたり話し方を練習したりしておくことで、やりとりが円滑になり、運動時間を十分確保することにもつながります。（写真２）

写真２

写真３

バドミントン練習では、自分の力で打ち返すことができるように、柄の短いラケットを使ったり、ひもで吊り下げたシャトルを打ったりする等、実態に応じた手立てで練習に取り組みます。（写真３）

自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の ①調和的発達の②基盤を培う。」ですが、**①の調和的発達を目指すのが「各教科等」、②の調和的発達の基盤をつくるのが「自立活動」に当たります。**各教科等と自立活動は、右図のような関係になります。教科の目標達成のための手立てや配慮点として、自立活動の指導を密接に関連付けていくことが大切です。学校生活の実際的な場面で自立活動と関連付けた指導を行うことで、児童生徒の**自立と社会参加の質の向上**につながっていきます。

（文責：佐藤孝史）

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

保健体育科の実践～自分の力でできる工夫～　<中学部：保健体育科>

本校中学部の保健体育では、運動会の練習やバドミントン、ボッチャ等を取り上げ、運動を行っています。各運動の技能の指導は生徒の体の動きや姿勢を考慮しながら、その生徒にあった走り方や打ち方、投げ方を考えています。また、様々な運動の際、役割を設定することで、待ち時間を少なくし生徒の参加意識を高めるようにしています。ホイッスルやタイマー、スコアボードは保健体育の学習でよく使う道具ですが、肢体不自由の学校では、ボタンを強く押すことや、スコアボードの点数をめくる動作が難しい生徒も多いです。今回は肢体不自由の子どもたちが自分たちでできるよう製作した道具を紹介します。

市販のホイッスルに自作スイッチをつなげ押す面を広くし、軽い力で音が鳴るようにしました。

ゲーム用のスイッチとストップウォッチをつなげ、軽い力でスタートやストップをすることができます。１００均のキッチンタイマーでも製作できます。

タブレットにスコアボードアプリをダウンロードし、画面にiPad タッチャーを置いて、スイッチで操作します。電子黒板と接続すると見やすく、ゲームも盛り上がります。

このような道具や補助具を用意することで、生徒の**今まで「できなかった」経験が「これがあればできる」経験になり自信に繋がる**こともあります。また、できることが分かれば、自分から役割を行ったり、進んで運動したりするなど**児童生徒の自主性や主体性にも繋がっていく**と考えます。

（文責：熊地勇太）

教育専門監のコーナー

《多様な個性が輝き合う授業》

【多様な個性が輝き、互いを尊重し合う学習集団】

確かな生きる力を育む信頼で結ばれた、成長し合える学習集団。
不安や困り感に必要な支援がなされている「安心して学べる」場。
様々な背景のある子どもたちをつなぎ、多様な個性が輝き合う授業。

【子どもたちが安心して学べる授業】

○すべての子どもが主体となる授業
考えを深めたり高めたりしながら、自分に自信がもてる機会の設定。

○子どもたちが主体的に参加できる授業の形態
多様な意見を発表する展開と学び合い、関わり合う形態の工夫。

○子どもたちの多様な意見を引き出す発問
自分の考えや意見を述べながら、身近な生活とつなげられる発問。

○授業が安心できる学びの場であるために
認め合い尊重し合う学習集団に向けた、互いの意見、考えを大切に、傾聴し合う雰囲気づくり。

○子どもをつなぐ授業づくり
互いの良さに気付く、知らなかった一面を知るなど、一人一人が持ち味を発揮する授業の積み上げ。

参考：『大阪の授業 STANDARD』（大阪府教育センター平成 24 年５月）

『役割がもたらす自尊感情の高まり』

生徒の背景に応じた様々な支援により、運動技能の習得と集団への参加を目指し進める中学部保健体育科の実践。大切にしているのは、動きへの気付きと自らの動きで集団参加を果たすこと。周囲との関係性の中で、思い、考え、工夫し、運動技能を獲得します。動きへの気付きは、意図や行動の調整をもたらし、多様な個性が輝く動きの表現へと変化していきます。さらに、状況に応じて道具を操作し、担う役割の中で、生徒は、自分の行動が周囲に影響を与え、認められる、かけがえのない存在としての自分に気付いていきます。学習で繰り返される技能の習得と役割を担う経験。その経験のもつ意味と価値が、自らの意思で「運動したい」「役割を担いたい」という気持ちとなり、集団での役割への気付きとルールへの理解を育んでいきます。周囲のモノ、ヒト、コトとの相互交渉により広がる関係性の中で、生徒は、互いの良さに気付き、認め合い、高め合いながら、自身の自尊感情を育んでいきます。

〈文責：二階堂　悟〉

教頭　　近藤　郁　　地域支援部主任　　大友　明希子
住所：〒010-1409　秋田市南ケ丘１丁目１番１号
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018（889）8573　　FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。
http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html